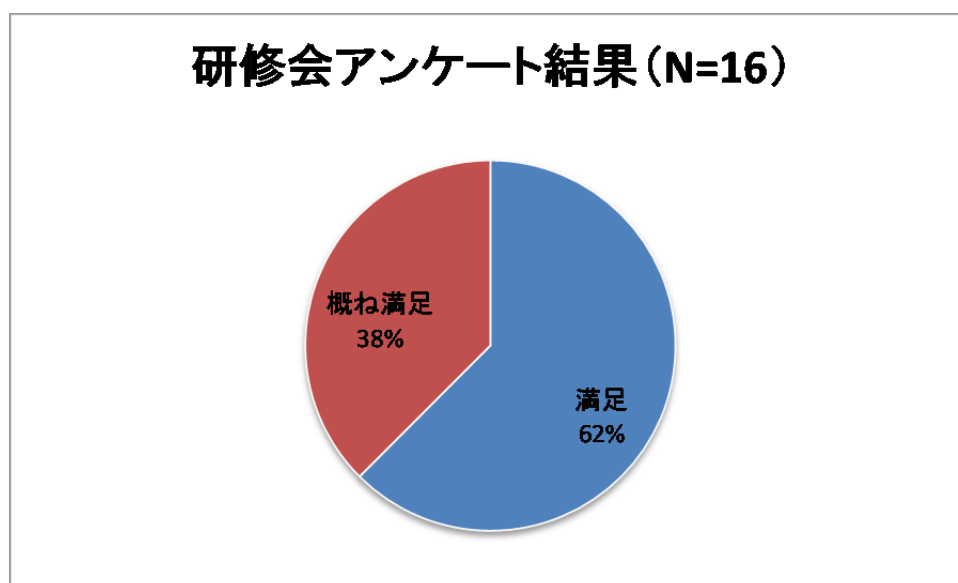


アンケート結果

参加者アンケートの回収率は94.1%で、「満足」及び「概ね満足」が占める割合は100%でした。満足した点として、具体的な事例を用いたワークショップ形式により参加者の多様な視点を共有できたこと、ツールの実践的な活用の理解が深まったこと、参加大学の立場や法人の違いにより課題の捉え方に違いがあることがわかったこと、などが挙げられていました。また、残念だった点としては、設定された条件で考えるのが難しかったこと、などが挙げられていました。

今後取り扱って欲しいテーマとしては、指標の作成、機関別認証評価等の報告書の作成方法、他大学の取り組み事例、などが挙げられていました。また、その他ご意見等として、ステップ1～4を通して行う研修の開催、私立大学では2月開催の研修は参加が困難であること、などがありました。



アンケート結果の詳細については、以下のとおり。

満足度	選択理由(5満足～1不満足)	今後取り扱って欲しいテーマ・内容等	その他ご意見・ご要望等	
①満足	自分の中でモヤモヤしていたものが、かなりスッキリしました。ロジカルな分析方法は今後活用していきます。		ありがとうございました。2月も参加させていただきたいと思います。	国
①満足	講義とグループワークを通じて、ツールの実践的な活用の理解が深まりました。ファシリテーターのお蔭で楽しくグループワークが進められました。	評価制度全般(教員評価などを含む)	今後も大学の評価担当者の能力向上に向けた研修会の開催を期待しています。	国
①満足	勉強になった。交流が図れた。	ステップ3・4		国
①満足	科研費の獲得戦略について、議論を通じて多様な手段が発案されていたため、学内に持ち帰って話したい話題も多くあった。	第二期認証評価の受審にあたっての心積もり等、とくに(学位授与機構の話になるが)新しい選択評価事項に対する学内準備、評価の視点等の学習をしたい。	本研修会のステップ3も参加したいです。	公
①満足	設定されたテーマに対して、多様な考えを持つ人が議論を行うことで、私自身が柔軟な考え方や捉える視点を得て、業務に反映できると思うから。		いろいろご指導いただきありがとうございました。	私
①満足	具体事例を使用した展開方法を学べ、ワークショップ形式のため参加大学の立場や法人の違いによる主軸のとらえ方に違いがあることがわかりました。	・今回の指標作成方法を楽しみにしております。	大変ありがとうございました。	私
①満足	実践的な内容でした。少しずつ業務に生かして行きます。	IRのデータ分析の手法について	評価指標の作り方の回にも参加したいと思います。ありがとうございました。	私
①満足	設定された評価大学の条件の下で考えを深めていくことで参加者が共通で議論できたのがよかったです。ただ一方では、設定された条件で考えるのも難しかったのが実際です。つい現実の勤務校について考えてしまいました。	教育プログラムの評価について		私
①満足	話し合いを通じて、いろいろな視点から考えなければならないことを実感できたため。	評価のまとめ方。データの取り扱い方。	今日はありがとうございました。次回も参加したいと思います。	
①満足	科研を担当しており、今後ぶつかるであろう課題について議論が出来たから。ツールを通じて具体的な課題に取り組むことが出来たから。			
②概ね満足	内容が分かりやすく、演習のテーマも個人的に興味がある分野であったため。	アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについて取り扱っていただけたらと思います(機関別認証評価にも関係してくるため)。	2日間でステップ1～4を行うという方法もあるのかなと思いました。	国
②概ね満足	目標・計画の策定について、論理的に説明があり、また、具体的な課題にもとづき、実際に作業することにより、理解が深まった。	研究評価指標の策定、活用方法について。効率的、効果的な評価作業の工夫について。(他大学での取組事例を紹介いただけるとありがたいです。)		国
②概ね満足	本研修を通じて、目的・計画を立てることの大切さと実際に作業する難しさを体験でき、非常によい経験となりました。		スタッフ、関係の皆様、ありがとうございました。	国
②概ね満足	しっかりと評価を行うためには、目標や計画がしっかりしていないといけないということ、何度か年度評価を担当して感じていたことなので、計画を立てる段階でこのような考え方も取り入れられるということがわかって良かったが、むつかしいし、いろいろな考え方があるので…。	他大学の先進事例を紹介いただけたらうれしいと思います。	お世話になりました。	公
②概ね満足	ツールに対する理解度(背景や考え方を含めて)を概ね分かりやすく深められたため。		①ステップ3の開催時期(2月初旬)は、関西の私大は軒並み入試期間なので、参加が困難である。②名簿に職名(役職)を記載する必要はないと考える。研修の受講に「肩書き」は不要ではないか。	私
②概ね満足	評価する上での課題やその課題を改善するための目的設定を流れて体験することができたから。	実績報告書を書くときのポイントなど。		

※属性について 国：国立大学、公：公立大学、私：私立大学、関：関係機関

(寫田 [茨城大]、大野 [鳥取大])

